

石井隆之 (いしいたかゆき)

英語のニックネーム： Tac STONEWELL



1956年11月27日大阪守口市生まれ
河合塾英語講師、サイマルアカデミー英語講師、武庫川女子大学・京都橘女子大学・摂南大学非常勤講師を経て、現在、近畿大学総合社会学部教授、京都女子大学・滋賀県立大学非常勤講師、言語文化学会会長、通訳ガイド研究会会長、(社)高等教育国際基準協会代表理事。

■主な著書：『英文ライティングの法則 178』(明日香出版社)、『国際会議・スピーチ・研究発表の英語表現』(ベレ出版)、『ニッポンの不思議 88』(Jリサーチ出版)、『英語の品格』(三修社)、『前置詞がわかれば英語はすらすら書ける!』(PHP 研究所)、『はじめからやり直す英文法』(実務教育出版)、『Overall Skills for the TOEIC Test』(共著、成美堂)など。

公式ホームページ： takayukiishii.com

メール： enlight36@socio.kindai.ac.jp

携帯メール： enlight36@ymobile.ne.jp

LINE ID：enlight36tac

■現在の研究分野： 言葉と文化、具体的には、理論言語学と日本文化論。

●言葉の分野における、私の現在の理論：
「曖昧性は束ね理論で説明できる」

★「束ね理論」とは？

例えば、数量詞が複数入った文の曖昧性は、「数量詞が表す数で、それが修飾する事物を束ねること」により説明できるという発想です。

具体例を挙げると、「3人の少年が2人の少女に出会った」という文。これは、一般に「3人の少年がまとまって行動し、あるときaという少女に、別のときbという少女に出会った」の意味と「3人がばらばらで行動する、すなわちAという少年が2人の少女に出会い、Bという少年が2人の少女に出会い、Cという少年が2人の少女に出会った」(少女は全員で6人の可能性がある)の意味の2つに曖昧です。

つまり、曖昧性は「3人の少年がまとまった場合」と「2人の少女がまとまった場合」の2つになると言えるのです。

●文化の分野における、私の現在の理論：
「日本文化は重なり志向である」

★「重なり志向」とは？

例えば、日本文化の諸側面が、「2つ、2度、2面、あるいは、その倍数、すなわち偶数個の重なりが原理として働いている」ということから説明できるとする発想です。

具体例を挙げると、鏡餅は2つに重ね、神社では柏手を2度打ち、日本人は建前と本音の2面性があることが、日本文化が重なり志向である証拠として挙げることが可能だということです。

■ちょっと変わった私の主張

私のジョーク的だが、半分いやそれ以上にまじめな主張

●花より単語、論より熟語、棚からボキャブラリー： 「語彙は非常に大切だ」ということ！

●立文安国論： 文法を立てると国語が安定する！日蓮上人の「立正安国論」の振り。

●立前安克論： 前置詞を立てると安心して英語が克服できる！

●英語上達のための<一十百千万の法則>

①毎日 1つの文法項目を学ぶ

(30分ぐらいで参考書を読む)

②毎日 10個の単語を覚える

(15分ぐらいで単語の例文を書き写す)

③毎日 100語の英文を書く

(30分ぐらいでライティング)

④毎日 1000語の英文を読む

(1時間の速読・音読・精読の組み合わせ)

⑤毎日 10000語の英文を聞く

(2時間のリスニング聞き流し)

※机上の勉強は、毎日2時間15分ぐらいが望ましい。

■趣味：京都散策

■私の論文(最近5年間)

●2011年

「英文の多義性と数量詞上昇条件」(近畿大学総合社会学部紀要)第1巻1号

「MタイムとPタイムの文化論」(言語文化学会論集)36号

「英語における冠詞の多義性と数量詞上昇」(近畿大学総合社会学部紀要)第1巻2号

●2012年

「副詞を含む英文の非構造的な多義性と束ね

理論」(近畿大学総合社会学部紀要)第2巻1号

「日本神話と重なり志向」(言語文化学会論集)38号

「五母音仮説と日本文化」(言語文化学会論集)39号

●2013年

「意味役割の差による英文の多義性と改訂束ね理論」(近畿大学総合社会学部紀要)第2巻2号

「多義性の数値化に関する一考察---組み合わせ言語学の提唱」(言語文化学会論集)40号 [20周年記念号]

「神道と『重なり志向』」(言語文化学会論集)40号 [20周年記念号]

「冠詞の二義性と改訂大束ね理論」(近畿大学総合社会学部紀要)第3巻1号

「スサノオと重なり志向」(言語文化学会論集)41号 [20周年記念2号]

●2014年

「日本文化と『二的重なり志向』」(言語文化学会論集)42号

「数量詞を含む文における多義性の段階性と漠然性の関連---Three boys met two girlsを中心に---」(近畿大学総合社会学部紀要)第3巻2号

「日本の神道の神々の特徴に関する一考察」(言語文化学会論集)43号

●2015年

「more than と「以上」を考える---統語論、意味論、語用論、対照言語学および比較文化論の立場から」(言語文化学会論集)44号

「反復原理と追加原理---森羅万象を説明する原理の再構築」(言語文化学会論集)45号